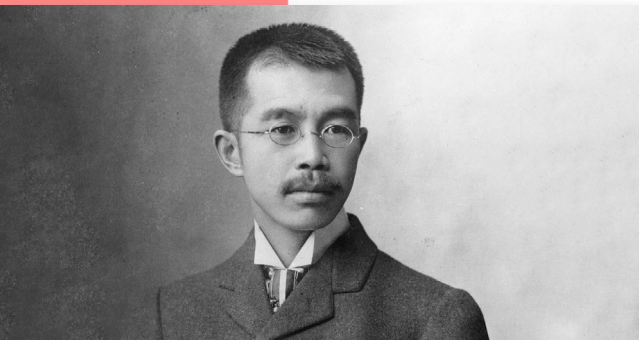


創業者 小平浪平



創業小屋



企業理念

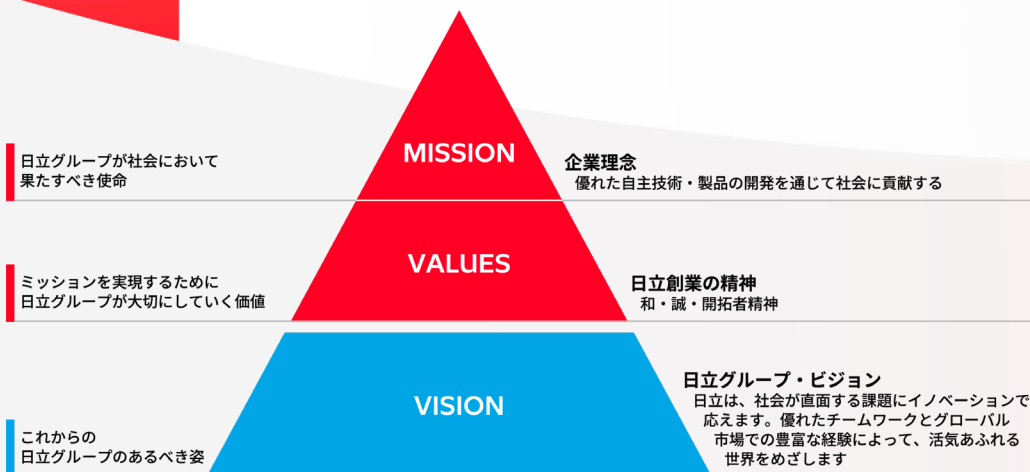
優れた自主技術・製品の 開発を通じて 社会に貢献する

日立創業の精神

和・誠・開拓者精神

1910年、日立は日本の茨城県にある鉾山機械の修理小屋で創業しました。創業者の小平浪平は、日本がまだ外国の製品や技術に大きく依存していた時代に、自らの技術力を信じ、情熱とたゆまぬ努力でモノづくりに挑み続けるチームを築き上げました。その原動力となったのは、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という小平の高い志です。この志こそが日立グループの原点であり、創業以来受け継がれてきた企業理念です。その理念の実現に向けて、先人たちは多くの困難を乗り越えながら、日立創業の精神を形作ってきました。そして、これらを踏まえ、日立グループはさらなる成長をめざす「あるべき姿」をビジョンとして掲げています。これらを体系化したものが、日立グループ・アイデンティティです。

日立グループ・アイデンティティ



1910



5馬力誘導電動機

小平浪平の指揮のもと、日立鉾山で使用するために開発された日立初の製品で、社会が直面する課題の解決に取り組んできた日立の原点です。

日立のあゆみ

創業以来、日立は社会インフラを支える技術や製品の開発を通じて、社会が直面するさまざまな課題の解決に取り組んできました。115年にわたる歴史の中で培ってきたOT（制御・運用技術）、IT、そしてプロダクトの強みを統合した社会に新たな価値を創出する「社会イノベーション事業」を推進しています。また、長期的な視点に立ち、常に最適な事業ポートフォリオを追求することで、変化する社会課題に柔軟に対応していきます。今後も、デジタルをコアとして、ミッションクリティカルな社会インフラの構築やサービスの提供を通じて、より良い社会の実現に貢献します。



Lumadaは、Illuminate（照らす・解明する・輝かせる）とData（データ）を組み合わせた造語。お客さまのデータから価値を創出し、デジタルイノベーションを加速するための日立の先進的なデジタル技術を活用したソリューション／サービス／テクノロジーの総称です。

 P.14 Lumadaの進化

創業
1910

IT

日本初のオンライン
座席予約システム「MARS-1」



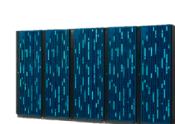
大型コンピューター
「HITAC シリーズ」



統合システム運用管理
「JP1」



仮想化機能を搭載した
ストレージシステム



プロダクト・OT

国産初の
大型電気機関車



国産初の
電子顕微鏡



透明式
エスカレーター



時速200kmを実現した
新幹線車両



国産第1号商用炉
(島根原子力発電所)



東京圏輸送管理システム
「ATOS」



陽子線がん治療システム
(筑波大学付属病院)



デジタル

IT

プロダクト・OT

LUMADA (2016ー)

デジタルをコアにした社会イノベーション事業の強化

ポートフォリオ強化

- JR Automationを買収 (2019)
- ABB社パワーグリッド事業を買収 (2020)
- GlobalLogicを買収 (2021)
- Thales社GTS事業を買収 (2024)

デジタル強化

- デジタルアセットマネジメントソリューション「HMAX」
- AI活用を加速するサービスソリューション強化 (VelocityAI、Hitachi iQ、HARC for AIなど)
- 豊富なAI人材 (GlobalLogic、Hitachi Digital Servicesなど)
- グローバルテック企業などとのパートナー強化

2024中期経営計画実績

売上収益 CAGR*1
(2021～2024年度)

14%

Lumada 売上収益比率

31%

Adj. EBITA率*2

11.1%

ROIC

10.9%

*1 CAGR：年平均成長率

*2 新定義のAdj. EBITA：調整後営業利益から買収に伴う無形資産等の償却費を足して算出した指標

 P.43 過去中期経営計画の振り返り